

各委員会・分科会での主な審査概要

決算特別委員会

令和4年度一般会計と特別会計の決算を認定

9月13日に決算特別委員会を開催し、総務企画分科会、文教民生分科会、産業建設分科会の3分科会を設置し、一般会計と10の特別会計の決算を審査しました。一般会計の決算額は、歳入338億3948万5599円、歳出323億6128万9778円で、歳入歳出差引額は14億7819万5821円。全特別会計の決算額は、歳入146億2206万1304円、歳出142億6202万9563円で、各特別会計とも黒字決算または収支同額でした。審査の結果、決算を認定すべきものと決しました。主な質疑に対する答弁概要は次のとおりです。

【一般会計決算総括】

実質単年度収支は4億6036万5000円の赤字となっているが、物価高騰対策として財源不足分を財政調整基金で賄ったことや、能代工業団地拡張事業において、4年度に実施した用地購入費や造成工事に係る県補助金、用地売払い収入を合わせた4億6000万円程度が5年度の歳入となり、財源の年度間調整を

行ったことが主な要因である。

【前年度比で市税収入が増加した要因】

増加した要因は、個人市民税の給与所得及び分離課税分の所得が増加したこと、固定資産税の商業施設及び風力発電設備の新設等があったこと、軽自動車税の環境性能割の臨時的軽減措置が終了したこと等が主な要因と考えている。今後、人口減少による市民税等の減少のほか、固定資産税についても減価償却等の影響により緩やかに減少していくものと見込まれることから、長期的には減少傾向にあると考えている。

【ふるさと納税返礼品の新商品開発等への取組】

ふるさと納税事業を本市の特色あるまちづくりや、市の産品等のPRの機会として活用していくため、返礼品についても工夫の余地はありと考えており、新たな返礼品開発や、寄附者にアピールするような取組を検討していきたい。

【北高跡地活用調査等事業費の内容】

北高跡地活用可能性の検討のための秋田公立美術大学への委託事業330万円のほか、北高跡地で実施する様々なイベント等の開催にかかる経費が主なものである。

【GIGAスクールでのタブレット端末の活用状況】

授業内では表現ツール、思考ツールとして話し合いの場面や学び合いの場面のほか、教科の特性に合わせて、調べ学習や動画撮影等で活用している。

【向能代公民館改築に関する地質調査等の結果】

現在の敷地内に建設することが可能であること、建物の配置等が具体的に示された。

【国民健康保険税滞納の解消に向けた対応策】

税務課の窓口を毎週金曜日午後7時まで延長して開設しているほか、納税強調月間を5月と11月に設定し、休日窓口を開設して納税相談等を行っている。このほか、滞納者へ納税コールを実施し、支払いを促している。さらに、スマートフォン決済アプリによる納入を開始し、支払方法の拡大に努め、口座振替加入促進のために納税通知書に口座振替の利用案内を記載し、市広報、ホームページでも周知を図っている。

【テュアルシステム事業の実績】

高校生21人が参加し、そのうち14人が実習先への就職につながった。

【8月の大雨による被害への支援】

農地・農業用施設災害復旧支援事業の実績が約730万円のほか、土のう袋や砕石等の資材提供により農家の復旧を支援した。

【毘沙門憩の森の事業費の内容】

消耗品等で約79万円、管理人の人員費で約170万円となっている。

【毘沙門憩の森の在り方】

当該施設は、森林等の豊かな自然に囲まれたエリアを活用し、市民が自然に親しむことができる場の提供や山村振興を目的として整備されたが、年数の経過により老朽化が進み、修繕が必要な箇所もあるため、費用対効果も考えながら施設の在り方を検討していきたい。

【除雪車両数とオペレーターの人数】

直営は能代地域が12台で13人、二ツ井地域が13台で12人となっている。委託業者は能代地域で27社、二ツ井地域で5社あり、直営と委託の総台数としては能代地域で90台、二ツ井地域で32台となっている。

(鍋谷 暁)